

令和4年度第72次印旛教育研究集会

保健体育中学校研究発表

【研究主題】

より主体的な学習活動を目指す指導方法の工夫

～クロムブックを活用した主体的な学び～



八街市立八街中央中学校 保健体育科

第7 2次印旛教育研究集会 (保健体育)

1 研究主題

『より主体的な学習活動を目指す指導法の工夫』
～クロムブックを活用した主体的な学び～

2 主題設定の理由

本校は、1年生5クラス編成、2、3年生4クラス編成、特別支援学級6クラスを含む全19学級で、全校生徒479名の学校である。昭和38年2月、朝陽中、交進中、二州中、川上中学校を統合して八街中央中学校が設置された。当時は実住小の一部を借りるなど、校舎は分散されていた。その後、昭和43年に旧校舎が完成。平成18年に現在の新校舎が完成した。学校教育目標として、「豊かな人間性とたくましい生きる力を身につけた生徒の育成」を掲げ、学力の向上に務めている。2020年に八街市から生徒一人一台のクロムブックが配布された。子どもたちは授業はもちろん、家にも持ち帰って使用するなど、学力の向上のために積極的に活用している。

新学習指導要領では、今の子どもたちが成人して社会で活躍する頃には、厳しい挑戦の時代を迎えていると予想されている。未来が予測困難な時代に、子どもたちが様々な変化に積極的に向き合い、他者と協働して課題を解決していく力の育成のために、「思考力・判断力・表現力」の育成を図るように提言されている。

新型コロナウイルスの影響下、日常生活や学校生活は大きく変化した。部活動の時間も大きく削減された。保健体育の授業に関しては、感染症対策の元、種目や活動方法が制限された。その中で「思考力・判断力・表現力」を育成していくためには、話し合い学習が有効な手立てになると考えた。しかし、自分の気持ちをうまく伝えられない生徒、コミュニケーションがとれない生徒が多く存在する。また相手の気持ちを理解できず「自分とその周辺さえ良ければよい」などと短絡的な行動をする生徒もいる。本校の保健体育の授業においては、男女共に積極的に取り組む生徒は多い。また授業内でグループ学習（班、チームによる練習など）を多く行っているが、それにより、リーダーを中心に運営などを自主的に行うことができるようになりつつある。

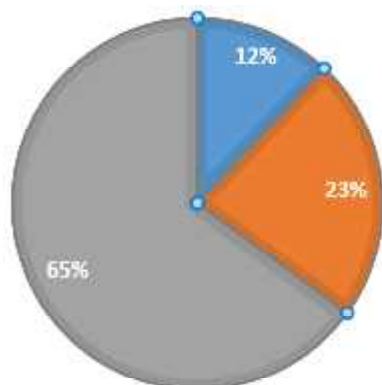
保健体育の授業についてのアンケートでは、まず保健の授業に対する興味関心が非常に低い結果となった。また、グループ活動の中で、友達にアドバイスをしたり、気づいたことを伝える事が出来ていないという回答が多かった。総じて、自分から意欲的に学ぶのではなく、受け身になってしまっていることが多いという結果となった。

そこで保健の授業において、クロムブックを活用し、学んだ知識と自分の生活についての関連を考えさせたり、仲間との意見交換を通して適切な行動を実践していく意欲を高めさせることにより、知識の習得のみにとどまらず、人間関係を構築していく力を伸ばしていきたいと考え、本主題を設定した。単元については、現在、日本人の2人に1人が罹患するといわれている「がん教育」を取り上げた。

<生徒の実態>

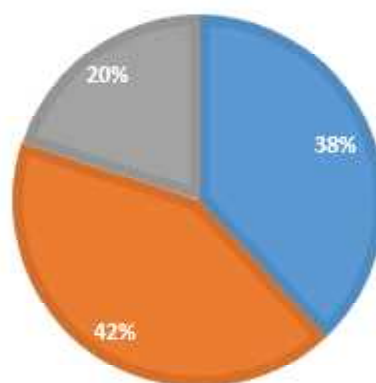
	1年生	2年生	3年生	特別支援	合計
男子	79名	67名	72名	22名	240名
女子	82名	71名	67名	19名	239名
合計	161名	138名	139名	41名	479名
クラス数	5クラス	4クラス	4クラス	6クラス	19クラス

保健の授業に興味・関心はありますか？



あてはまる . . . 12%
どちらともいえない . . . 23%
あてはまらない . . . 65%

積極的に意見交換することができますか？



あてはまる . . . 38%
どちらとも言えない . . . 42%
あてはまらない . . . 20%

3 研究のねらい

- ・ク롬ブックを活用した資料作成を通して、より主体的に学ぶ意欲を高めていくことができる。
- ・グループ活動、資料のプレゼン（発表）を通して、コミュニケーション能力の育成と、思考力の育成につながる。

4 研究仮説

【仮説 1】

保健分野の授業を通じて、ク롬ブックを活用したグループ活動を充実させることで、言語活動の活発化、よりよい人間関係の構築をすることができるであろう。

中学生のスマートフォン所持率が高い。よって、子どもたちの ICT 機器への興味・関心は非常に高いと考えた。保健の授業において、これまで個々で ICT 機器を使用することはなかった。これまでと同じ内容でも、ノートや模造紙に字や絵などを書いてまとめていくより、データで資料作成の方が将来に役立つとともに、取り組みやすいであろうと考えた。

【仮説 2】

言語活動が活発になることで、グループの発表に対する意見交換の内容も深まり、主体的に学ぶ姿勢へとつながるであろう。

これまでのグループ活動では、情報量が少なく、資料作成に携わることがあまりできずに意見交換も少なくなってしまうグループが見られたが、ク롬ブックを活用することで、情報量も多くなるため、意見交換も活発になると考えた。

5 具体的な取り組み

【仮説 1】

① ジャムボードを活用し、積極的に自分の考えを仲間に伝える。

思ったことを言い合うだけでは、グループ発表につなげていくことは難しい。ジャムボードを活用することで、簡単にブレインストーミングができる。また、情報整理も簡単にできる。言語活動の「見る、話す、読む」に重点を置き、取り入れた。

ステージ4 が1番治りに くい	入院 する	抗癌剤 治療	段階が ある	早期発見 早期 治療	手術しても 再発してし まう事がある	病気	リンパ節の がんがある	ステー ジがある
転移 する	亡くなって しまう確率 が高い	転移してし まったりす る	吐き気 が来る	遺伝す ることが ある	色々な 場所に できる	再発が ある	苦し い	脳にも 転移す る
手術す るの怖 い	容姿に影 響が出 てしま う	良性と 悪性が ある	死ぬか もし れない	悪化す ること がある	何段階かの "ステー ジ"が ある	いろん な種類 がある	心臓に がんは できず らい	2人に1人 悪性 が、3人に1人 がんになる
しん どい	まだ完全 にがんを 逃げる 薬はな い	抗がん 剤治療	転移	色々な 種類が ある	亡くな ること がある	抗がん 剤つら さう	子供じゃ なくて、 孫に 遺伝し やすい	副作用で 髪が 抜けて しま う
辛い	怖い	大変	再発する 可能性 がある	肺が ん	母から 子へ 移 る	抗がん剤 治療の 副作用 で髪が 抜ける	生涯で 亡くなる 確率は 悪性が27 %、良性が 73% である。	抗癌剤 治療 で髪が 抜ける 可能 性 がある

②スライドを活用し、班ごとに資料を作成する。

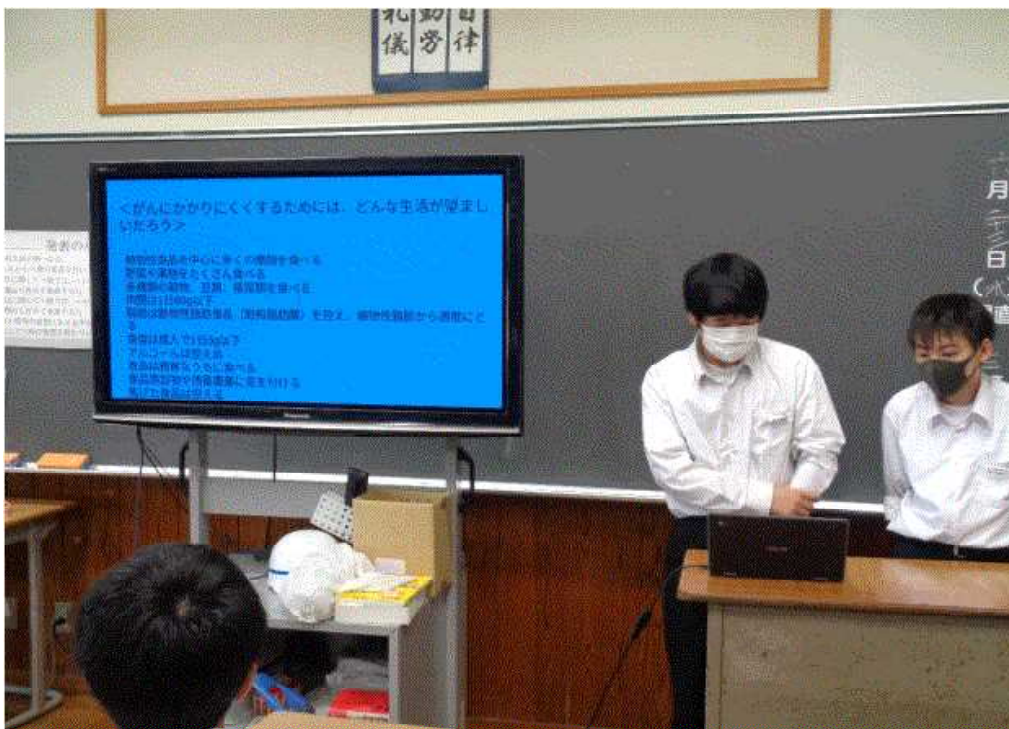
クロムブックで、がんについて調べて班ごとに発表用の資料を作成する。資料作成はスライドを活用し、画像・音楽を入れることで、発表者も作成する楽しみがあり、聞く側も興味・関心が湧くので取り入れた。発表内容の資料を、協力してまとめるようにする。



【仮説2】

資料を発表を行い意見交換をすることで、より主体的に取組み、考えを深めることができるようにする。がんは身近な病気であるということを理解させ、がんの予防法について関心を持ち、適切な行動ができるようにするための意欲を高めることをねらいとする。自分の生活を振り返りながら、考えられるようにする。

《発表の様子》





6 研究のまとめ

(1) 仮説1からの結果と考察

仮説1

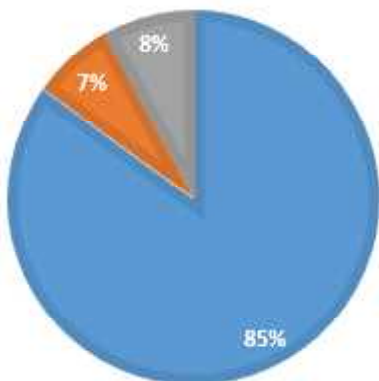
保健分野の授業を通じて、クロムブックを活用したグループ活動を充実させることで、言語活動の活発化、よりよい人間関係の構築をすることができるであろう。

【結果】

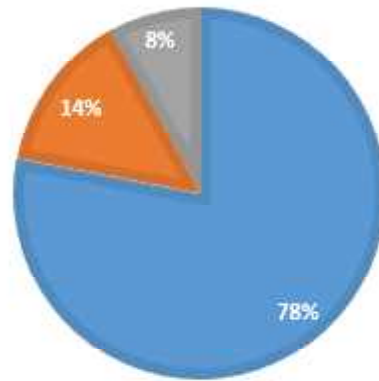
今回の研究では、クロムブックの「ジャムボード」、「スライド」を活用し、意見交換と資料作成を行った。その結果、自分の意見を積極的に入力したり話をしたり、発表することができた。また、スライドを活用し意見交換する中で、仲間と協力したり、新しい気づきを得ることができた。ほとんどの生徒が授業に前向きな姿勢で取り組むことができたことがアンケート結果からも見取ることができた。

ジャムボードを活用し自分の考えを表現できましたか？

仲間と協力して取り組むことができましたか？



あてはまる . . . 85%
 どちらともいえない . . . 7%
 あてはまらない . . . 8%



あてはまる . . . 78%
 どちらとも言えない . . . 14%
 あてはまらない . . . 8%

【考察】

ジャムボードを活用したことで、自分の意見をなかなか発言できない生徒が、自分の考えを入力することができるようになった。周囲の生徒は入力された言葉について話題にしたり、質問をすることで、生徒間のコミュニケーションが活発になった。自分とは違う考え方に触れたり、意見交換して考えを深めることができるなど、好循環が生まれた。

スライドを活用したことで、発表資料を作成することが苦手で、消極的な態度だった生徒が、前向きに取り組むことができるようになった。理由としては、発表内容をクロムブックで比較的簡単に調べることができるようになったこと。模造紙に書く作業がなくなったこと。自分のイメージに沿って資料が作りやすいこと。(画像や音楽を挿入できる)があげられる。発表者が聞き手の興味・関心を引けるように資料作成を行っていたのが、とてもよかった。

(2) 仮説2からの結果と考察

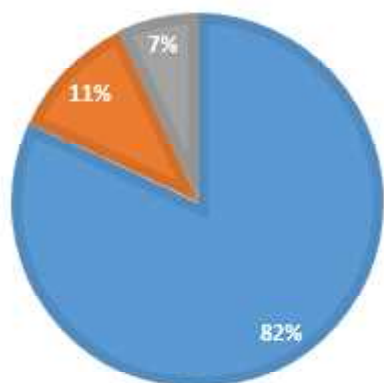
仮説2

言語活動が活発になることで、グループの発表に対する意見交換の内容も深まり、主体的に学ぶ姿勢へとつながるであろう。

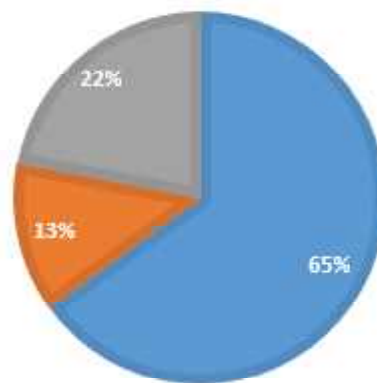
【結果】

積極的に意見交換することができていますか？

クロムブックを活用したことで保健の授業への興味・関心は変わりましたか？



あてはまる . . . 82%
どちらともいえない . . . 11%
あてはまらない . . . 7%



あてはまる . . . 65%
どちらとも言えない . . . 13%
あてはまらない . . . 22%

(生徒の自由記述欄の回答)

- ・クロムブックを使うことで、資料作成がとても楽しくなり、班の話し合いも盛り上がった。
- ・自分が疑問に感じたことやみんなに伝えたいことを自主的に調べるので、達成感がある。
- ・発表だけではなく、質問されることによって、深く考えることができる。
- ・班内で役割り分担をして、みんなで資料を作成しているという実感があつた。
- ・個性豊かな資料作成ができて、発表を聞いていて飽きなかったし、学んだことが多かった。

【考察】

班活動のときに、意見交換を積極的に行い、資料作成や発表の仕方について、班内でよく考えることができていた。スライドに自分たちで調べた内容を書いて、画像や音楽なども工夫を凝らして活用する中で、こだわりをもって取り組む様子が見てとれた。その結果、発表の際に、

書いてあることを読むだけでなく、話し合いで出た意見や考えを、聞き手に伝えることができていた。また、質問をされても、しっかり答えることができていた。

7 成果と課題

《成果》

- ・クロムブックの活用で、生徒の興味・関心は確実に向上した。
- ・ジャムボードは生徒同士の考えをわかりやすく目にすることができるため、話の材料となりやすく、話し合いが活発になった。
- ・普段、あまり話をしない生徒同士でも、ジャムボードを通じて意見交換する様子が見られた。
- ・仲間の考え方に触れることにより、新たな一面の発見もあり、人間関係がより深まった。
- ・仲間にアドバイスすることで、ポイントを理解することができた。
- ・スライドでの資料作成は、協力して取り組むことができていた。班発表時には興味をひいていた。
- ・発表を通して、他者に伝える力を養うことができた。また、新たな課題も発見することができた。
- ・保健分野の目標である、「個人生活における健康・安全について理解」、「健康についての自他の課題を発見」、「生涯を通じて心身の健康の保持増進を目指す」という3点を踏まえた学習活動にすることができた。

《課題》

- ・今後のがん教育について、養護教諭と連携したり、映像教材を使ったり、ゲストティーチャーを招いた指導も含め、検討していきたい。
- ・クロムブックの使い方指導（ルール）の確認も必要を感じている。
- ・ジャムボードの活用について、事前指導が必要である。
- ・スライドの作成に、時間がかかりすぎる場合もあるので、全ての単元において活用するのは難しいだろう。
- ・調べた情報がすべて正しいわけではないことも理解したうえで、正しい情報であるかの確認が必要である。
- ・参考資料元をはっきりさせておくことが、必要であることを理解させるとともに、参考資料を明示することを約束事とする。
- ・単元テストを細かく実施して、理解度をその都度確認できるようにしたい。

8 おわりに

本研究は、子どもの生活習慣の変化や、コロナ禍における運動能力の二極化が進み、運動能力・技能において個人差が大きくなっている現状において、保健体育科の授業においても、積極的にICT機器を活用し、新しい試みを通して子どもたちの力を伸ばしていきたいと思い取り組んだ。特に、思考力・判断力・表現力を高めていくための手立てとして、自分の課題解決のために、情報を自分たちでキャッチし、解決方法を考え、適切な方法を選択し、それらを伝え合えることができるようにすることを目的とした。そのために実技ではなく、保健の授業を選択した。子どもたちの授業に対する姿勢を見ていると、これまでの保健の授業との違いは一目瞭然であり、意欲的に取り組む姿があった。クロムブックの使い方等に課題はあるが、積極的に活用していくことの大切さを感じた研究だった。今後も研究を続けていく中で、様々な課題に直面すると思うが、子どもたちにとって何が必要かを第一に考えていきたいと思う。